

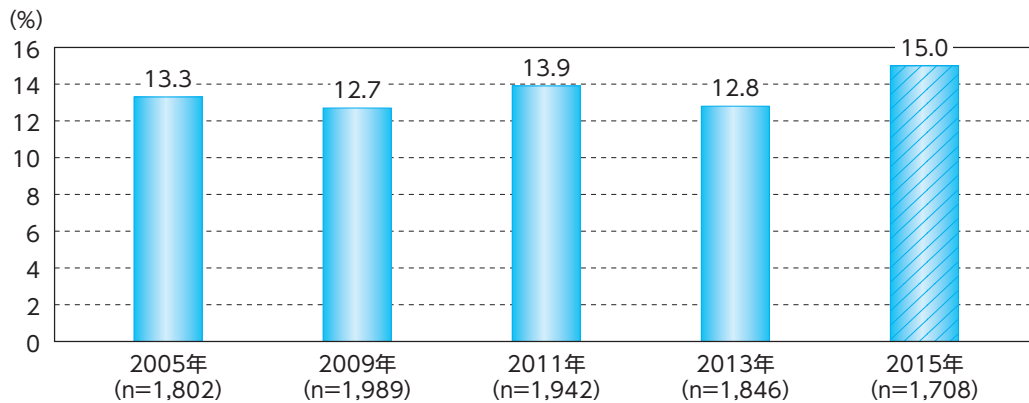
5 スポーツボランティア

5-1 スポーツボランティア実施状況

過去1年間に運動・スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツ活動を支えるボランティア活動（スポーツボランティア）を行ったことがあるかをたずねたところ、「ある」と回答した者は15.0%であり、10代のスポーツボランティア人口は178万人と推計できる（図5-1）。過去10年の推移をみると、13%前後で推移してきたスポーツボランティ

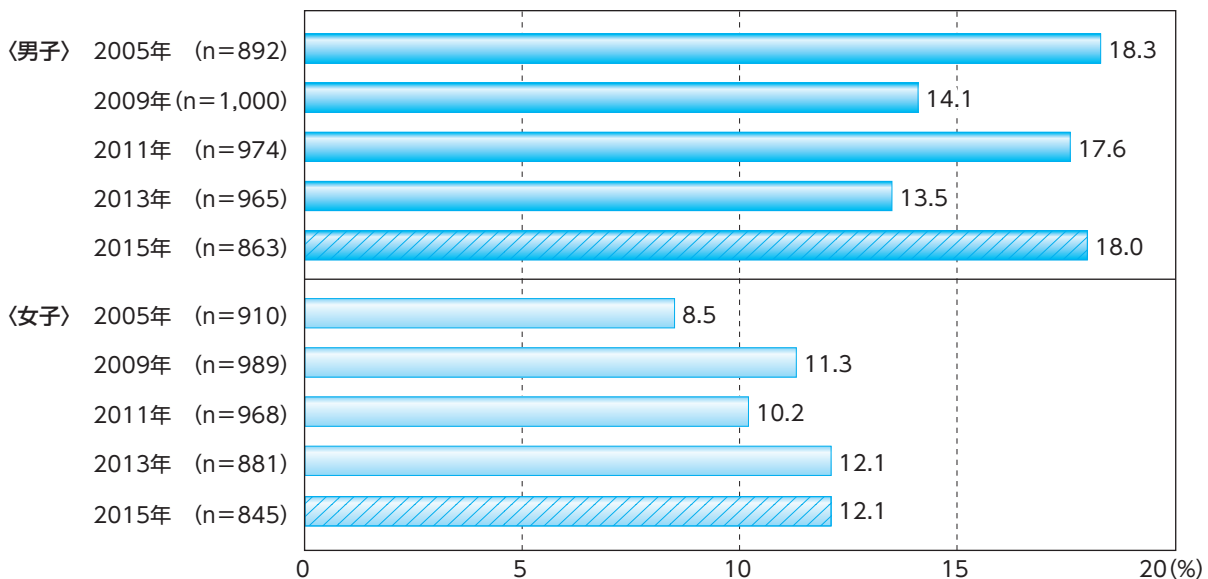
ア実施率が、今回調査では過去最高の15%に達した。

性別にみると「ある」と回答した者の割合は男子が18.0%、女子が12.1%であり、男子の方がスポーツボランティア実施率は高い（図5-2）。2013年調査では13.5%であった男子の実施率が4.5ポイント増加した一方で、女子は増減がみられなかった。



【図5-1】スポーツボランティア実施率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015



【図5-2】スポーツボランティア実施率の年次推移(性別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

学校期別にみると、スポーツボランティア実施率は中学校期で19.5%と最も高く、次いで高校期18.5%、大学期11.0%、勤労者10.0%、小学校期7.1%であった(表5-1)。2013年調査と比較すると、中学校期で6.2ポイントの増加がみられた。

性別・学校期別にみると、男子は中学校期が24.3%と最も実施率が高く、次いで高校期20.8%、勤労者15.0%、大学期10.8%、小学校期7.6%であった(表5-2)。女子

では、高校期の実施率が16.0%と最も高く、中学校期13.7%、大学期11.2%、小学校期6.5%、勤労者6.0%と続いた。男女で中学校期では10.6ポイント、勤労者では9ポイントの差がみられた。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」3.1%、「レベル1」7.1%、「レベル2」9.9%、「レベル3」16.2%、「レベル4」27.4%と、レベルが上がるにつれてスポーツボランティア実施率も高くなる(図5-3)。

【表5-1】スポーツボランティア実施率の年次推移(学校期別)

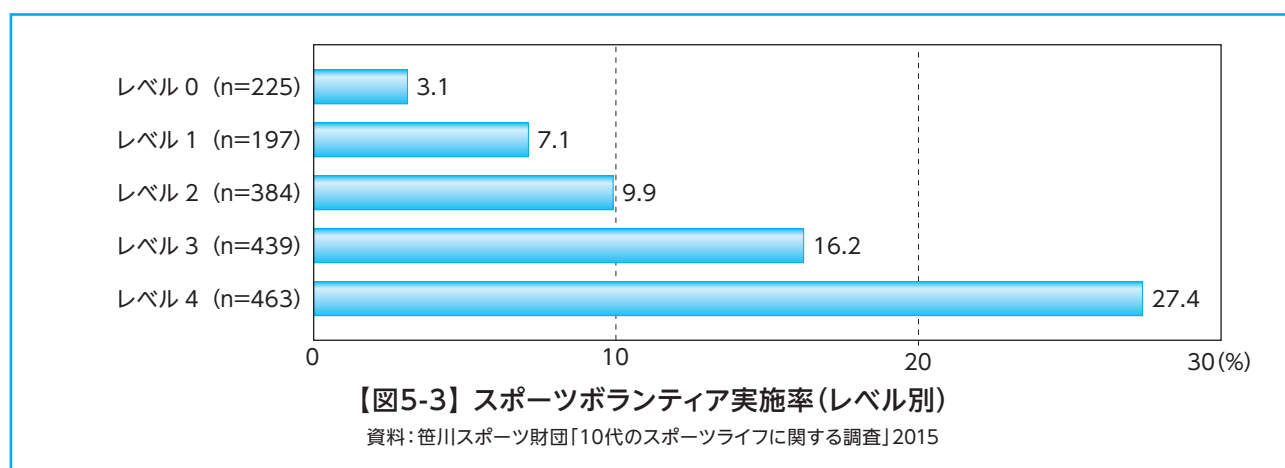
2011年		2013年		2015年	
学校期	%	学校期	%	学校期	%
小学校期 (n=373)	5.4	小学校期 (n=389)	7.2	小学校期 (n=310)	7.1
中学校期 (n=589)	17.0	中学校期 (n=586)	13.3	中学校期 (n=514)	19.5
高校期 (n=633)	16.3	高校期 (n=558)	17.4	高校期 (n=531)	18.5
大学期 (n=236)	17.8	大学期 (n=199)	10.6	大学期 (n=227)	11.0
勤労者 (n=83)	4.8	勤労者 (n=86)	10.5	勤労者 (n=90)	10.0

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表5-2】スポーツボランティア実施率(性別×学校期別)

性別	学校期	%
男子	小学校期 (n=157)	7.6
	中学校期 (n=280)	24.3
	高校期 (n=274)	20.8
	大学期 (n=93)	10.8
	勤労者 (n=40)	15.0
女子	小学校期 (n=153)	6.5
	中学校期 (n=234)	13.7
	高校期 (n=257)	16.0
	大学期 (n=134)	11.2
	勤労者 (n=50)	6.0

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015



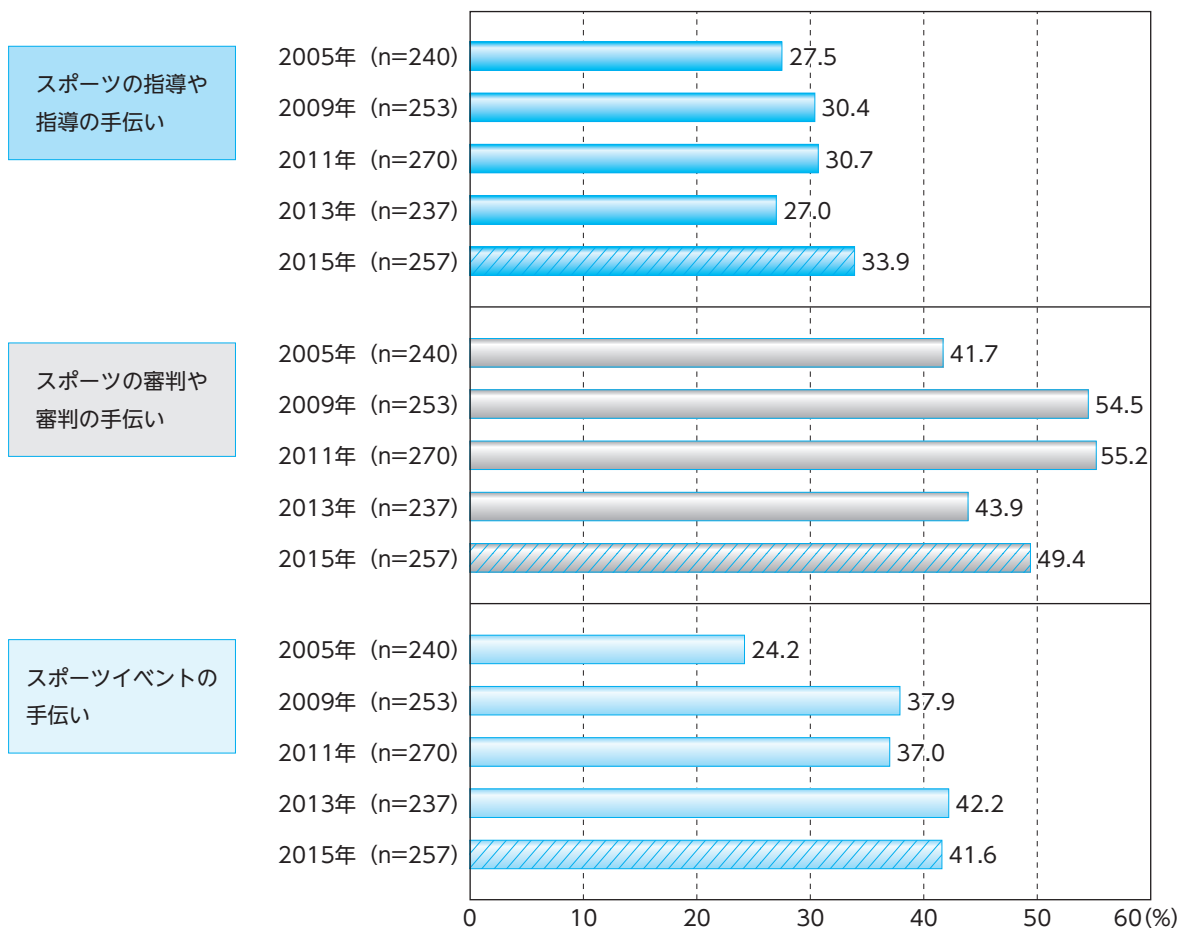
5-2 スポーツボランティアの内容

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、その具体的な内容を複数回答でたずねたところ、「スポーツの審判や審判の手伝い」（以下、「審判」）が49.4%で最も高く、次いで「スポーツイベントの手伝い」（以下、「イベント」）41.6%であった（図5-4）。経年でみると、「スポーツの指導や指導の手伝い」（以下、「指導」）は過去最高の実施率を示し、「審判」は2013年調査と比較すると5.5ポイント増加した。

性別にみると「審判」は男子が高く、「指導」と「イベント」は女子が高い（表5-3）。特に「指導」は、過去において男子が高い傾向が続いていたが、今回調査では逆転した。

学校期別にみると「指導」は中学校期が若干低い割合であるが、小学校期から大学期にかけてほぼ同水準であった。「審判」は中学校期、高校期で高く、「イベント」は小学校期と大学期で高くなっており、学校期による実施内容の特徴がみとれる。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「指導」は「レベル0」を除いてほぼ同水準であった。「審判」はレベルが上がるにつれて実施率は高くなり、「レベル4」では6割を占める。「イベント」は「レベル0」では85.7%と最も実施率が高く、一方で「レベル4」では30.7%と最も実施率が低かった。



【図5-4】スポーツボランティアの実施内容の年次推移（複数回答）

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

【表5-3】スポーツボランティアの実施内容(性別・学校期別・レベル別:複数回答)

(%)

内 容	男子 (n=155)	女子 (n=102)	小学校期 (n=22)	中学校期 (n=100)	高校期 (n=98)	大学期 (n=25)	勤労者 (n=9)	レベル0 (n=7)	レベル1 (n=14)	レベル2 (n=38)	レベル3 (n=71)	レベル4 (n=127)
スポーツの指導や指導の手伝い	31.0	38.2	36.4	28.0	36.7	36.0	55.6	14.3	35.7	36.8	36.6	32.3
スポーツの審判や審判の手伝い	58.1	36.3	36.4	59.0	50.0	28.0	33.3	0.0	14.3	44.7	43.7	60.6
スポーツイベントの手伝い	38.7	46.1	59.1	35.0	39.8	56.0	55.6	85.7	42.9	42.1	56.3	30.7

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

5-3 スポーツボランティアのきっかけ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施のきっかけをスポーツボランティアの内容別にたずねた。

全体をみると「先生や指導者に言われたから」が「指導」57.5%、「審判」70.6%、「イベント」70.9%といずれの活動においても最も高かった(表5-4)。また「自分でやりたいと思ったから」が「指導」31.0%、「審判」16.7%、「イベント」15.5%となり、いずれの活動においても2位であった。

上位2項目の実施理由を中心に性別にみると「指導」では「先生や指導者に言われたから」が男子60.4%、女

子53.8%、「自分でやりたいと思ったから」が男子27.1%、女子35.9%と、男子と比較して女子が自発的に行っている割合が高い。「イベント」においても同様に「先生や指導者に言われたから」が男子77.6%、女子62.2%、「自分でやりたいと思ったから」が男子12.1%、女子20.0%と、女子の自発的実施の割合が高かった。

一方、「審判」では「先生や指導者に言われたから」が男子70.0%、女子72.2%、「自分でやりたいと思ったから」が男子17.8%、女子13.9%と、男子の自発的実施の割合が高かった。

【表5-4】スポーツボランティアのきっかけ(全体・性別)

(%)

内 容	スポーツの指導や指導の手伝い			スポーツの審判や審判の手伝い			スポーツイベントの手伝い		
	全体 (n=87)	男子 (n=48)	女子 (n=39)	全体 (n=126)	男子 (n=90)	女子 (n=36)	全体 (n=103)	男子 (n=58)	女子 (n=45)
先生や指導者に言われたから	57.5	60.4	53.8	70.6	70.0	72.2	70.9	77.6	62.2
家族に言われたから	3.4	4.2	2.6	3.2	2.2	5.6	4.9	1.7	8.9
自分でやりたいと思ったから	31.0	27.1	35.9	16.7	17.8	13.9	15.5	12.1	20.0
友だちに誘われたから	5.7	4.2	7.7	6.3	5.6	8.3	6.8	5.2	8.9
覚えていない	2.3	4.2	0.0	3.2	4.4	0.0	1.9	3.4	0.0

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

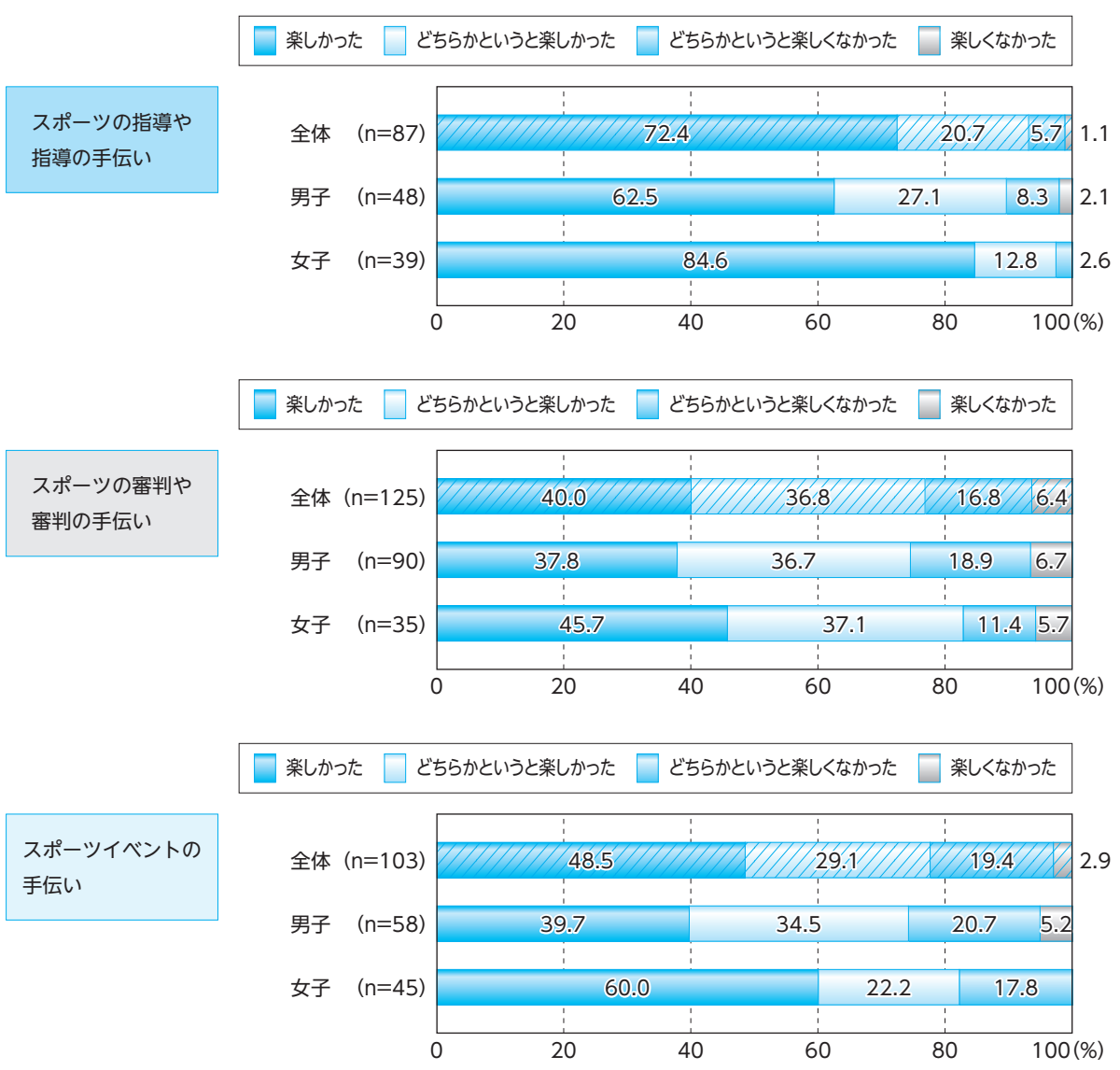
5-4 スポーツボランティアに伴う楽しさ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施した活動は楽しかったかどうか、スポーツボランティアの内容別になぞねた(図5-5)。

全体をみると「指導」では「楽しかった」72.4%、「どちらかという楽しかった」20.7%と、これらの割合を合わせた『楽しかった』の割合は9割を超えた。「審判」では「楽しかった」40.0%、「どちらかという楽しかった」36.8%であり、『楽しかった』の割合は76.8%であった。また「イベント」では「楽しかった」48.5%、「どちらかという楽しかった」29.1%と、『楽しかった』の割合は77.6%であり、「審判」「イベント」とともに3/4以上が『楽しかった』と回答している。

性別にみると「楽しかった」と回答した者は、「指導」「審判」「イベント」いずれの活動においても男子に比べて女子のほうが高い。なかでも「指導」では、女子の84.6%が「楽しかった」と回答しており、「どちらかという楽しかった」(12.8%)と合わせると、スポーツの指導や指導の手伝いをを行った女子のほとんどがその活動を楽しいと感じていた。

性別にみると「楽しかった」と回答した者は、「指導」「審判」「イベント」いずれの活動においても男子に比べて女子のほうが高い。なかでも「指導」では、女子の84.6%が「楽しかった」と回答しており、「どちらかという楽しかった」(12.8%)と合わせると、スポーツの指導や指導の手伝いをを行った女子のほとんどがその活動を楽しいと感じていた。



【図5-5】スポーツボランティアに伴う楽しさ(全体・性別)

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015

5-5 スポーツボランティアの実施希望

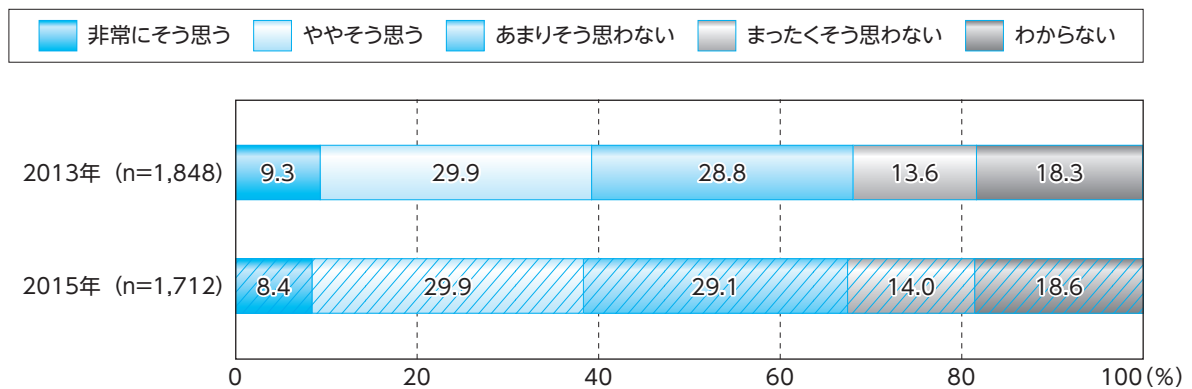
今後、スポーツボランティアをやってみたい、または続けたいと思うかをたずねたところ、「非常にそう思う」8.4%、「ややそう思う」29.9%、「あまりそう思わない」29.1%、「まったくそう思わない」14.0%、「わからない」18.6%であった(図5-6)。「『そう思う』(「非常にそう思う」+「ややそう思う」)の割合は38.3%と、4割近い10代がスポーツボランティアの実施希望をもっている。

図5-7に性別、学校期別、運動・スポーツ実施レベル別にみた『そう思う』の割合(スポーツボランティア実施希望率)の年次推移を示した。性別にみると、男子37.5%、女子39.0%であり、女子が男子をわずかに上回る。2013年調査と比較しても大きな変化はみられなかった。

学校期別にみると、中学校期が42.9%と最も高く、次いで高校期39.8%、大学期39.6%、小学校期34.7%、

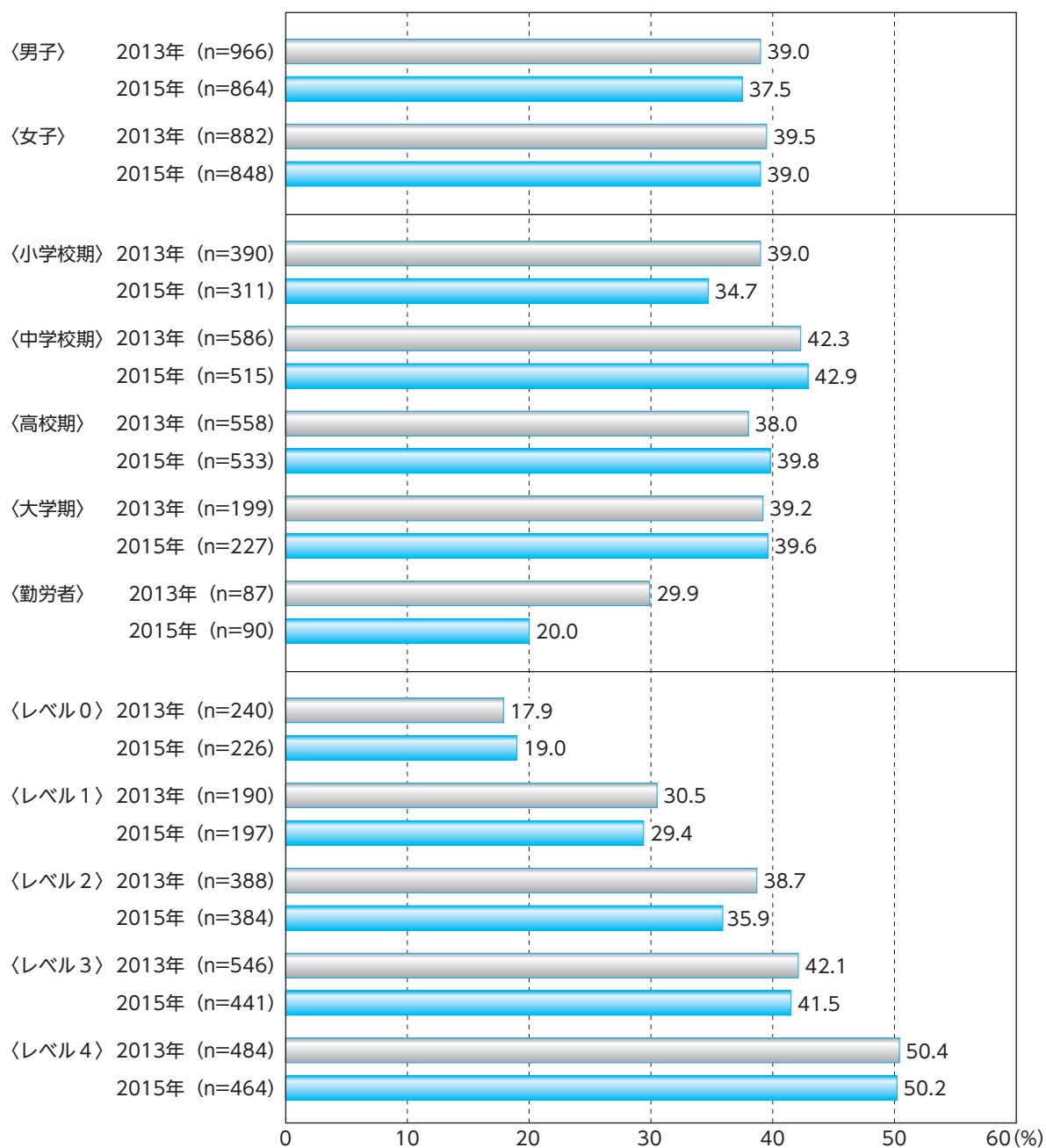
勤労者20.0%であった。2013年調査と比較すると、小学校期と勤労者で実施希望率の減少がみられたが、中学校期、高校期、大学期ではわずかではあるが増加している。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」19.0%、「レベル1」29.4%、「レベル2」35.9%、「レベル3」41.5%、「レベル4」50.2%と、レベルが上がるにつれて実施希望率も増加する。特に「レベル4」では、半数がスポーツボランティアの実施を希望しており、積極的に運動・スポーツを行っている者ほどスポーツボランティアへの関心も高い状況がうかがえる。2013年調査と比較すると「レベル1」から「レベル4」ではいずれも実施希望率の減少がみられるが、「レベル0」ではわずかに増加の傾向がみられた。



【図5-6】スポーツボランティア実施希望率の年次推移

資料：笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015



【図5-7】 スポーツボランティアの実施希望率の年次推移(性別・学校期別・レベル別)

注) 今後、スポーツボランティアをやってみたい、または続けたいと思うかに対する回答

「非常にそう思う」および「ややそう思う」を合計した割合

資料: 笹川スポーツ財団「10代のスポーツライフに関する調査」2015